

平成30年度滋賀県「学校を核とした地域力強化」第3回研修会 兼 コミュニティ・スクール連絡協議会 開催報告

- 1 目的** 事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、本年度の各市における取組事例の発表や講演を通じて、地域の将来を担う人材の育成や「地域とともにある学校づくり」にかかる今後の推進方策について、ともに学ぶ機会とする。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) 各市町担当職員
(2) 各校・園教職員
(3) 地域学校協働本部関係者
(4) 地域未来塾関係者
(5) 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者
(6) 土曜日の教育支援活動関係者
(7) 家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
(8) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者
(9) 県・各市町社会教育委員、公民館・コミュニティセンター等職員
(10) 地域と学校の連携・協働に関する事業関係者
(11) 教員をめざす学生

4 日時 平成31年1月22日（火）13:30～16:30

5 日程

- 事例発表 米原市における地域学校協働活動の報告
(地域学校協働本部、地域未来塾、コミュニティ・スクール)
高島市における地域学校協働活動の報告
(地域学校協働本部、コミュニティ・スクール)
- 事業説明 「学校を核とした地域力強化プラン」に係る
平成31年度概算要求説明より
- 講演 演題：「地域の教育力の向上を図るために」
講師：香川大学地域連携・生涯学習センター
センター長・教授 清國 祐二氏

6 場所 滋賀県庁新館7階大会議室

7 参加者数 132名

8 概要

米原市と高島市より、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進に全市をあげて取り組んでいる事例について発表いただいた。

講演では、「この地域で子どもを育てていくために、この地域でつきたい力は何か」を学校と地域が同じテーブルにつき知恵を結集することや、担い手が絶えないしくみづくりのためにも種をまき続けることの重要性などについてお話いただいた。また、地域との関わりの中で子どもに社会参画意識を持たせることの大切さに共感させられた。

9 参加者のアンケートより

- 新たな学力観について、たくさんの具体例を示しながら、説明して下さったのでとても納得できた。「どれだけたくさんのたくわえをつくるかではなく、どれだけ使っていくか。」の視点は、これからの教育や施策にいかしていきたい。
- 「根回し」、「情報提供」、「納得」というキーワードを大切に、地域の力を最大限に引き出したいと思う。
- 今まで、地域と学校が連携する意味や必要性がはっきりわからなかったが、今日理解できてよかった。
- 子どもが自分の地域に責任を持つということになれば、素晴らしい。そのためには、子どもたちに地域の人々が愛情をそそぐことが大切だと感じた。
- 子どもにつきたい力を、学校・地域・家庭で共有していく必要があると感じた。それぞれがバラバラのような感じであるが、それを立て直すチャンスが来たと思った。
- CSで担っていく、教育は知恵であり、価値観である。「常識的な価値観」を教えてあげられるのは、地域の間人であると思った。

